

ふれあい ひろば

2019年 秋号 Vol.90



「痙縮」を知っていますか？

副院長 砂田 一郎

痙縮、「けいしゆく」と読みます。筋肉が緊張しすぎてつっぱってしまい、手足が動かしくなくなったり、勝手に動いてしまったりする状態を言います。原因は脳や脊髄などの障害で起こり、一般的には障害が生じた後、時間が経ってから徐々に出現・進行してきます。痙縮が下肢に生じると歩きにくくなったり、指が握りこんで爪が切りにくくなったり、肘や膝などに生じると服の脱ぎ着がしにくくなったりしますので、生活面で困ってきます。昔の脳卒中の方のイメージは、肘や手や膝が曲がり、足先がつっぱっていますが、これは痙縮が生じた時の姿なのです。

治療方法には薬剤内服、神経ブロック、ボツリヌス毒素治療、神経根切断術、バクロフェン髄腔内投与などがありますが、主に行われているのは、内服、ボツリヌス毒素治療、バクロフェン髄腔内投与です。

内服薬としては、リオレサル®、ギャバロン®、ダントリウム®、テルネリン® などがありますが、効果を発揮するためには大量に服用しなければならず、眠気やふらつきなどの副作用が出やすい欠点があります。

ボツリヌス毒素治療とは、ボツリヌスという細菌が作り出す毒素のたんぱく質を抽出して無毒化し、固くなった筋肉に注射します。すると徐々に筋肉が緩んできます。ただ、注射した筋肉しか効かないことや、効果が持続しないので約3ヶ月毎に注射しなければならない欠点があります。現在、最も多く行われている治療法です。

バクロフェン髄腔内投与は、内服薬のリオレサル®、ギャバロン®であるバクロフェンを脊髄液の中に直接投与する方法です。内服薬よりも数百倍も少ない量で効果を得ることができ、副作用を生じにく

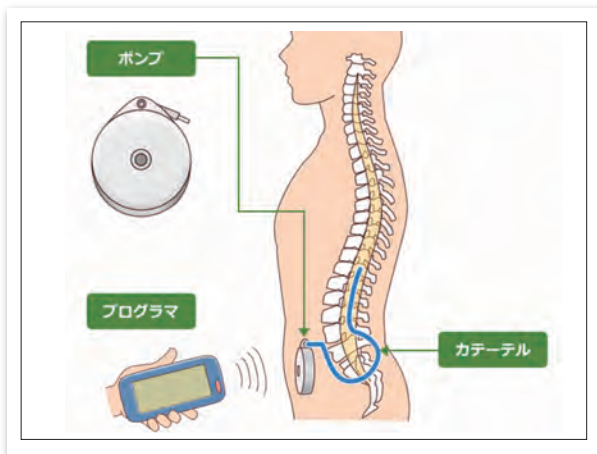
愛仁会リハビリテーション病院

三島圏域地域リハビリテーション
地域支援センター

- 住所：高槻市白梅町5番7号
- 電話：072-683-1212
- URL：http://aijinkai.or.jp



- 1面 「痙縮」を知っていますか？
- 2面 入院セットサービス開始のお知らせ / 愛仁会リハビリテーション病院 Facebookのご紹介
- 3面 地域クリニックとの連携の中で②
- 4面 患者さまだより② / 高槻在宅サービスセンターだより



い治療法です。具体的には、手術で腹部に埋め込まれた、バクロフェンを貯留した金属製のポンプから脊髄腔に挿入されたチューブ(カテーテル)を介して脊髄液の中にバクロフェンを持続的に注入します。手術をしなければなりません、効果は持続的かつ全身性で、手術後にバクロフェンの投与量を皮膚の上から器械で調整することができます。2006年に我が国で治療が開始となり現在までに1300例以上に施行されてきました。

当院でも、ボツリヌス毒素治療とバクロフェン髄腔内投与を、入院・外来で行っています。

診察および治療は、毎週金曜日午後1時30分より3時まで完全予約制で行います。痙縮でお悩みの方は、かかりつけ医、主治医等にご相談の上、事前にお電話等でお申し込みください。

(担当医 砂田一郎)





入院セットサービス 開始のお知らせ

入院セット
サービス
350円
日額・税別

愛仁会リハビリテーション病院 事務部 管理科 科長 坂井 邦彦

当院では2019年10月1日より、リネン類・日用品を定額(350円/日額・税別)でご利用いただける入院セットサービスを導入することといたしました。当サービスをご利用いただくことにより、入院時に必要となる衣類・タオル・消耗品類の購入及び持ち込みが不要となり、衣類やタオルなどの洗濯の負担が軽減され、いつでも清潔な物が自由に使用可能となります。また、患者様及びご家族様にかかる入退院時・入院中の労力負担を軽減させることにも繋がると考えております。

使用可能な日用品も数多く取り揃えておりますので、是非ご利用ください。

リネン類



寝巻



室内着



タオル



バスタオル



靴下



肌着



日用品(必要に応じてご使用いただけます)



歯ブラシ



歯みがき粉



ふた付コップ



入歯洗浄剤



入歯ブラシ



入歯ケース



舌ブラシ



ストローコップ



ヘアブラシ



BOXティッシュ



口腔スポンジ



洗口液



ボディソープ



シャンプー
リンス



食事用
エプロン

※実際の商品とは色や細部等が異なる場合がございます。

* 愛仁会リハビリテーション病院 Facebookのご紹介

診療情報管理室 越智 敏之



さて、当院の公式Facebookを見られたことはありますか？
当院では患者さまやご家族、地域住民の皆さまに向けた情報発信のツールとしてFacebookを2016年11月に開設し、開設以降、学会発表や研修会・院内クラブの活動報告など当院職員の活躍の様子を中心に発信してまいりました。今後も様々な情報を発信してまいります。皆さまのお越しをお待ちしています。





地域クリニックとの連携の中で

Vol.24



総合診療
循環器・糖尿病
小児科 など

山口医院

〒569-1022 高槻市日吉台七番町17-12

TEL.072-687-6525

<http://www.yamaguchi-iin.or.jp/index.html>

山口医院

検索



日々の診療でお世話になっている
山口医院 松本 浩明院長先生に
インタビューさせていただきました。

診療時間 (9時~12時・17時~19時)

診療時間	月	火	水	木	金	土
朝	●	●	—	●	●	●
昼	●	●	—	●	●	—
夕	●	●	—	●	●	—

【休診日】水曜・土曜午後・日曜・祝日

山口医院は日吉台で48年前に前院長の山口誠先生が開業され、松本先生は10年前に院長になられ、地域の方を支えてこられました。山口先生は2019年末に引退され、現在医院を継承されています。

松本先生は総合診療・循環器・糖尿病を専門とされていますが、小児科の先生も勤務されているため、小児から高齢者まで幅広い年代の方の診療が可能で、近隣で通院が難しい患者さんにはご自宅で診療される訪問診療もおこなってられます。

糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師と管理栄養士も勤務されており、年に数回地域の方向けに、糖尿病食を学ぶ食事療養指導も診療所の2階で開催されています。食事の指導だけでなく、最近は「ランチ会」として地域の高齢者の集う場になりつつあるとのことでした。

近隣にない診療科があれば手配するなど、常に地域のニーズが何かを考え、それに応えられるようにしたいとお考えだとのことでした。

日吉台近隣は高齢化が進んでいますが、長年診療している地域の方々が安心して生活できるように、子育てから老いまで寄り添えるような診療所にしていきたいという思いをお伺いさせていただきました。

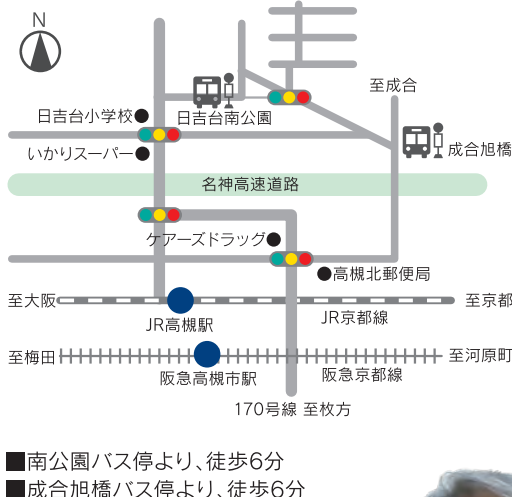


ミャンマーなど開発途上
国で医療の必要な方の診
療をおこなった経験もおあ

りで、国際医療にも関心をお持ちとのことでした。

いつも患者様のご紹介を快く引き受けいただきありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

アクセス



* 診療内容のご案内

- 内科・総合診療
- 糖尿病診療
- 小児科診療
- 管理栄養士による栄養相談・食事指導
- 訪問診療
- 予防接種外来(完全予約制)
- ACP(advance care planning
=人生会議)外来(完全予約制)

山口医院 松本 浩明院長▶





Q 現在の生活はどうか？

今まで勤務していた寮母の仕事は8月末に退職し、主人と家事を分担しています。現在は愛仁会リハビリテーション病院で週1回花壇のボランティア活動をしており、とても楽しみにしています。また、地域の方々より子ども食堂の立ち上げをしたいと言われて、食事の内容についてアドバイスを求められており、話し合いにも参加しています。

退院してからリハビリを受ける機会が減り、身体が動きづらくなってきたように感じます。今はリハビリになることがないか考えています。

外出時は何かあると心配なので、誰が見ても経過が分かるように、メモを持ち歩くようにしています。



これからも体調にはお気を付けて、花壇ボランティアへお越し下さい。また機会がございましたらお話ししましょう。

Sさん今回は貴重なお話をお聞かせ頂き、有り難うございました。

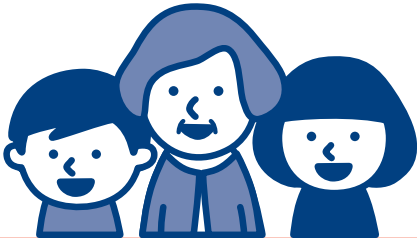
INTERVIEW

インタビュー

地域医療部 阿部 愛美

Sさん(60代・女性)

2019年3月にくも膜下出血発症され、急性期病院で治療を受けられて、リハビリ目的に当院に入院されました。入院時は移動に歩行器が必要で、物の見落としや注意力の低下等の後遺症が見受けられました。約1ヶ月半のリハビリで症状が改善され、歩いてご自宅へ退院されました。現在は旦那様と協力しながら、過ごされています。



愛仁会高槻 在宅サービスセンターだより

在宅生活をスタートしたばかりのKさんをご紹介します。脳出血を発症され、その後何度も手術を受けてきたKさん。呼吸状態が不安定で飲み込みに支障があり、胃瘻の造設、気管切開術を受け、気管カニューレを装着、カニューレを入れたままの退院となりました。

退院後も、咳と嘔吐が続いていたため、デイサービスが利用できず、ご両親とも不安な日々が続いていました。かかりつけの先生が、呼吸は安定しており、カニューレが入っていることが原因の嘔吐ではないかと判断され、自宅でカニューレを抜去することにしました。

退院してから2週間後、看護師2名も立会い、お母様もドキドキしながら見守るなか、カニューレを抜去。抜去直後から安定した呼吸をさ



自宅での生活がスタートしたばかりです!!

訪問看護ステーション愛仁会高槻 訪問看護師 辻井 沙智子

されており、とてもスッキリした表情に！お母様も何度も大丈夫？と声をかけられ、ご本人も「大丈夫」と合図してくれました。私達も自宅での抜去は初めての経験であり、とても感動し皆で喜びを分かち合いました。

その後は咳や嘔吐もほとんどなくなり、毎週デイサービスに通うことができ、自宅ではお父様と一緒にソファに座るなど、ベッド以外で生活する時間が増えていきます。

看護師は週3回訪問し、明るく笑顔を絶やさないお母様と毎回楽しくおしゃべりをしながらケアをさせていただき、私達にとっても癒される時間となっています。リハビリも順調で、言語聴覚士とのリハビリでは食べる訓練もどんどん進んでいます。

これからもKさんが安心して過ごし、ご家族が笑顔でいられるよう、全力でサポートしていきたいと思っています。